レッスン：PYR No.7

テーマ：現在のパーソナリティーによるピラミッドの使用

PYR N0.7 KE03 02/4/A11

私の姉妹、兄弟たちよ、

スピリット、光、火の子供達よ。私たちは常に主、主の聖性の絶対のなかに抱かれています。

　多くのレッスンで述べたように、現在のパーソナリティーは様々なサイクルの助けとして与えられている様々なタイプのピラミッドを使用することによって、最終的にもう一つのタイプのピラミッドを創造します。それは一面ピラミッド、つまり円錐形のピラミッドです。それは現在のパーソナリティーがLifeからもっと多くを現わすことができ、形の外側へと意識を広げることができることを意味します。どれだけ達成できるかは、何であれLifeからのものを三面ピラミッドによってどれだけ与えられるかによります。そして、それが生じるためには、パーソナリティーはゆっくりと徐々に2つのピラミッド、つまり三面ピラミッド、そして5面ピラミッドを回転させる必要があります。

　さて、三面ピラミッドは前に述べたようにLifeそれ自身から現在のパーソナリティーに提供されているものです。五面ピラミッドはどうでしょうか？五面ピラミッドは五感を意味しますが、同時に真の感覚を意味し、現在のパーソナリティーはそれを現わすことを求めるべきです。現わす？しかし、今でも現在のパーソナリティーはそれらを現わしています、あるいはそうとは知らずにそれらの感覚を使って自分を現わしています。

　前にも説明したように、パーソナリティーが思考を使っている時、記憶やファンタジーその他を使っている時、真の感覚を使うことによってそれらを行っているのです。ですから真の感覚を使って自分を現わすというとき、それは現在のように潜在意識的に無意識に使うのではなく、意識的に使うことを意味します。

　さて2つのピラミッドを回転させることは全てのサイクルにおいて生じます。1番目および2番目のサイクルは部屋の中です。3番目のサイクルではパーソナリティーは自分の人生を意識的に生き始めます。それはパーソナリティーが何が益になり、何が益にならないかを認識できるということです。しかし、パーソナリティーが自分を意識的に現わしていても、それは5つの感覚を使用します。

　ですから、そのパーソナリティーは2つのピラミッドを回転させます。しかし、パーソナリティーが3番目のサイクルを完了すると、パーソナリティーは真の感覚を使って自分を現わすようになります。

　4番目のサイクルではパーソナリティーは自分を超意識的に現わします。つまりパーソナリティーは既に真の感覚を使っています。パーソナリティーは4番目のサイクルの最初において5つの感覚をマスターしている必要はありません。パーソナリティーは何回かの転生を重ねた後に、それが生じます。ですから、実際5面ピラミッドは4番目のサイクルにいる間は役立ちません。

Page2,

　パーソナリティーは三面ピラミッドだけを回転させるのでしょうか？どう思いますか？2次元のシンボルがあり、3次元のシンボルがあります。しかし、実際には全てのシンボルは2次元なのです。しかし、パーソナリティーが物質のなかにいる間は、それらのシンボルは3次元の状態を取る必要があるのです…パーソナリティーが物質によって提供されている境界の外に出るための助けになるために。

　そして物質によって何が与えられているのでしょうか？肉体でしょうか？人間が自分を現すために肉体が与えられた時、最初は性別というものはありませんでした。何が与えられていたのでしょうか？パーソナリティーにはエゴの様々な側面が与えられてきました。それらがパーソナリティーがLifeそれ自身から現わすのをストップさせる手段です。そして肉体が提供しているものをパーソナリティーが取り除くと言う時、それはエゴの様々な側面を意味します。

　パーソナリティーは最初は守護のために五芒星を使いますが、それは五感（それは真の五感とそうでない影の五感がありますが）を意味します。また同時にそれは人間のイデアフォームの元型を象徴し、それを守護として使う間、それは人間のイデアフォームの元型として使われます。そして勿論、五感のためには五面ピラミッドとして3次元のなかでシンボルとして存在します。

　そして3面ピラミッドを回転させると何が得られるでしょうか？円錐ですか？しかし2次元における円錐は三角形です。この三角形はLifeそれ自体を意味する三角形と同一かどうか、それは別の問題です。それはまだLifeの本質を完全には現わしておらず、それ故に同一ではないのです。

　さて、***4番目のサイクルで起きることに戻ります。このサイクルにある現在のパーソナリティーは真の感覚を使うことを知っています；そして超意識的意識のセルフエピグノシスを現わします。***

　このレベルの現れ以降、現在のパーソナリティーは同調を現わします。この能力はLifeの本質のなかにあり、それはシンボルとして六芒星を使います。ですから4番目のサイクルにあるパーソナリティーは三面ピラミッドと共にこのシンボルを使うようになります。このシンボルは、自己実現のレベルにおいて何であれLifeから現わされるものを提供します。それは三角形だけではなく、三面ピラミッドだけでもありません。

　説明したように、現在のパーソナリティーが最初の磔に到達すると…それは現在のパーソナリティーの大きな三角形の底辺を意味しますが（＊生命の木の一番下の大きな下向きの三角形）、現在のパーソナリティーは自分自身の三角形を持つようになります。六芒星を構成する三角形です；それはいわゆるキリスト意識です。

　これが起きるためには、現在のパーソナリティーはこのシンボルを4番目のサイクルが終わりまで、それが完了に至るまで使います。終わる迄といいましたが、それは多くの転生を意味します。それに先だって、そのパーソナリティーはやるべき他のワークがたくさんあります。そして説明したように、そのサイクルにおいてそのパーソナリティーはエゴの様々な側面を取り除く必要があります。それがどのようになされるかは別のストーリーとなります。

　ですから、エゴの様々な側面があり、パーソナリティーはそれらの側面を取り除く、つまり殺す必要があります。そしてまた前にも説明しましたが、影としての現れが制限ある表現のなかに入るのを助けたのはそれらのエゴの側面です。つまりLifeそれ自身を現わさないで、無知のステートに入るということです。同時にそれらのエゴの側面は現在のパーソナリティーがそれらを取り除く助けとなります。それらの側面は現在のパーソナリティーを直接的に助けるわけではありませんが、しかし現在のパーソナリティーがそうと気づかずに、それらの側面はそれらを取り除くためにそれらの助けを使うようにプッシュします。しかし、もしそれらの側面がそれに気づいているなら、それらは殺されることを望まないでしょう。

Page3

 Q：前に三次元のシンボルは実際には二次元であると言いましたが、それについてもう少し説明してくれますか？私はそれを理解できなかったのです。

K：はい、何であれこの次元、この実存の波動のなかにあるものは実は影に過ぎません；本当のものは二次元なのです。そして実際、本当のものには次元はないのです。Lifeそれ自体は実際いかなるシンボルも必要としません、しかしその現れが創造の諸世界にある間は、私たちはシンボルを使っているのです。もし現れがその本質を完全に現わしているなら、全てはイデアフォームとして存在します。人間が三次元にいる間は、それを二次元としてアプローチします；実際には次元はまったくないのです。

　ですから、イデアフォームとしてのシンボルがあり、そして私たちがこれらの実存のバイブレーションのなかでそれを使う時、私たちはそのシンボルに3次元のヒポスタシス（＊状態）を与えなければならないのです…それが物質界にいる現在のパーソナリティーを助けるためには。それゆえにピラミッドがあり、それらのモニュメントがあるのであり、それ以外の理由はありません。それゆえに、今私たちは六芒星をピラミッドとして使おうとするのです。

　六芒星をどのようにして使い、回転させるのでしょうか？六芒星を回転させて円錐を作ることができるでしょうか？できません、私たちは三次元のヒポスタシスを与える必要があります。ですから、六面ピラミッドを持つようになります、それを三面ピラミッドと共に回転させます。そして勿論、その結果として、私はその三角形をマスターするようになるでしょう。しかし、その三角形はもはや下向きの三角形ではありません。

Q：二面は三次元のイデアであると言うことができますか？

K：そう言うことができます。

Q：しかし、私たちは二次元である五芒星を使います。

K：それはあなた方が使う守護のためのものです。そして六芒星は後に二次元のなかで使われます。五芒星を使う代わりに、自己実現した現在のパーソナリティーが不可視のヘルパーとして働く時には六芒星を使います。なぜなら、**そこで行う仕事は主の名前のもとに行われるからです。実際には主が行うのです；そしてLifeそれ自体のシンボルは五芒星ではなく、六芒星です。**

Q：それではそれはいかにして14芒星と関係するのですか？

K：達成すること、マスターすることによって関係します。実際にはマスターするということではありませんが、それは何であれLifeそれ自体から提供されたものであり、現在のパーソナリティーは勿論、以前のレッスンで説明したように14芒星を使うことに成功するでしょう。同時に現在のパーソナリティーに六芒星と14芒星が提供されます。五芒星は現在のパーソナリティーが4番目のサイクルにいる時でも使用します。六芒星は自己実現の後に初めて使用し、4番目のサイクルでも使用しません。現在のパーソナリティーが感覚、真の感覚を使用する代わりに、同調を使うようになった時に使用します。パーソナリティーが超意識的意識のセルフエピグノシスを現わすと言う時ですら、パーソナリティーはまだ感覚を使い、思考、二元性をまだ使用しているのです。

Q：私はいつも六芒星は同化のためであり、同調には五芒星だと思っていました。同化のためにシンボルを使うのですか？

K：レッスンで説明したように、そのパーソナリティーは六芒星を使用するが、その現れ、つまり今や自己実現した魂に与えられるもう一つのシンボルがあります。それは七芒星ですが、それについて私達は何もわかりません。八芒星についても同じことがいえ、勿論それにアプローチすることはまったく不可能です。八芒星はWidest of Heavens（最も広大なるヘブン）、つまり処女マリアを意味します。私たちはそのシンボルに関してはまったくアプローチしませんが、古代からそれは使用されてきました。使用されたと言う時、それは何かを達成するという意味で述べているのではありません。なぜなら、現在のパーソナリティーあるいは魂のセルフエピグノシスでさえも何かを達成するためにそれを使用することは不可能だからです。

Page4

Ｑ：それでは同化について話す時、私たちはそれと関連させたり、または何か特定のシンボルと関連づけることはないのですか？

Ｋ：シンボルとしては七芒星と言いましょう。それは自己実現した現在のパーソナリティーが魂のセルフエピグノシスのなかに同化した時に与えられるからです。すると自動的に、そうです、このシンボルがそこにあります。七芒星です。しかしそれは、移動のために使われることはありません。なぜならば、Lifeそれ自体は何も必要としないからです。三次元の体を使用するときには守り、保護が必要ですが。保護が必要なのはその時だけです。なぜならば、何かを与えたり、助けたりしている時にサイコノエティカル体に何かが生じると、肉体もその結果を蒙るからです。

　説明したように、自己実現した現在のパーソナリティーが助けを与える場合、例えば戦場などでその体が弾丸その他で撃たれるような危険もありますが、そのパーソナリティーはまず最初に眠りの状態に入ってからエクソマトシスという現象に入ります。そのパーソナリティーは自己実現のステートに入り、つまりサイキカル体、低次ノエティカル体を高次ノエティカル体に同化させます。その場合、高次ノエティカル体は自動的に人間のイデアフォームを帯びます。それはスーパーサブスタンスのバイブレーションです。

　そしてそのステートのなかで、そのパーソナリティーは多重性を使用し、多くの同一体を使用して自分を表現します。そして同一体のなかの一つが肉体に戻り、肉体は再び目覚めている状態を現します。目覚めていることがそうする唯一の方法です。そして他の同一体は特定の仕事を行います。しかし、実存のそれらの波動のなかで人間を助けるためには、波動を下げて、それらの諸体が触れることができるレベルに下げる必要がありますが、そうすると自動的にそれらの諸体は傷を受けやすくなります。そしてそれらの諸体に起きることは肉体にも生じます。それゆえに、そのような仕事を行う場合には、そのパーソナリティーは多重性を使用する必要があるのです。

　あなた方がこのような仕事を行う時には、何であれ自分が行うことが肉体に影響を及ばさないということを百パーセント確信して行う必要があります。いいですか、そのような状態でも、同時に他の不可視のヘルパー達が監視しています。そして多重性を通じて、あなたは一人ではなく、あなたを守っている多くの目があるのです。そのようなことが生じています。そして勿論そのようにしている間、あなたはあたかも結果を蒙っている、つまり肉体は眠らないというような結果を蒙ります。

　なぜ私たちはこれ全てを話しているのでしょうか？なぜなら、今晩話していることは最終的には現在のパーソナリティーがそれに向き合うことになるからです。しかし、それがどれだけ多くの転生を重ねた後になるかは誰もわかりません。なぜでしょうか？そのパーソナリティーはそのパーソナリティーがスタートした所に帰還するためには、その前に何であれそのパーソナリティーが経なければならないことに親しむ必要があるからです。そして前に説明したように、私たちは部屋の中にいる間でも何らかのワークを行います。そしてそのようなワークを行うからといって、それは後に行うことになる真のワークに本当にアプローチしているとは言えません。

　例えば、私たちはある程度まで2つの梯子、ヤコブの梯子および他の梯子を使うようになります。他の梯子とはエゴの様々な側面と対応しています。なぜなら、実際それもまた梯子だからです。

＊Page 5

Ｑ：あなたが例としてあげた不可視のヘルパーですが、それは不可視のヘルパーは彼が助けを与える領域が自分に危険をもたらさないということを確認する必要があるということですか？

Ｋ：それが私が述べたことです。そうある必要があります。それは用心深くあるということではありません。用心深いということはパーソナリティーが五感を使用している時だけに言えることだからです。たとえあなたが波動を下げていても、そこには同調があり、即座に、例えば、何であれそこにあるものに対面し、あなたに向かってくるものに向き合うのです。あなたはそこから離れ、遠ざかると思いますか？あなたは離れません、自動的にあなたは自分の波動を上げます。（＊その結果）それはあなたを通過して行きますが、あなたの身体に害を及ぼしません。それが実際に起きることです。しかし、もしあなたが何かを動かそうとして、あるいはその人がそうと気づくことなく相手を持ち上げようとしてそのステートに留まると、その時には何であれあなたに向かって来るものはあなたを打つことでしょう。しかし自動的に、時間を置かずに自動的にあなたは（あなたはどんな意味をも越えているので）自分の波動を上げて、何によっても攻撃されなくなります。そこでは過ちは許されません。

　**守護天使は物質に「介入する」能力があります。しかし、その場合には、天使達は自分たちの波動を下げることができることを意味します。そして大天使と同じように守護天使たちはそれを行うことができる唯一の存在です。**

Ｑ：不可視のヘルパー達は誰を助けるか否かをどのようにして決めるのですか？

Ｋ：不可視のヘルパーは実際誰でも助けます。助けが顕現するか否か、つまり結果のことですが、それは別問題です。誰に対しても助けるという努力は行われるのです。

Ｑ：それでは、不可視のヘルパーが同調する度ごとに、彼は何百万もの人々を助けることができるということですか？

K：そうです。不可視のヘルパーは。なぜなら、あなたが同調するとき、あなたがそのステートに到達すると、あなたは実際に助けを提供するのです、**それは一人のパーソナリティーに同調するということではないのです。あなたはこの地球上で誰であれつながっている人のニーズに同調します。**

**あなたは例えば地球の上にいる、大気のなかにいる人誰とでも同調することができ、また他の惑星上とも同調することができます。**

　覚えておいてください。パーソナリティーに付き添っているアークエンジェルがそこにいて、スーパーサブスタンスのなかを泳いでいるのです。**自己実現した現在のパーソナリティーがスーパーサブスタンスを使うと、自動的に何であれそれらの波動のなかにあるものとつながります。しかし、必要となるものは原因・結果の法則による許可です。**もっと実際的に説明しましょう。もし誰かが危険な状態にあったら、アークエンジェルは現在のパーソナリティーがその結果を避けられるように助けようとします。しかし、**もし法則がそれを完全に避けることを許さない場合、不可視のヘルパーは自分で働きます。つまり不可視のヘルパーはその結果を自分で背負うとします。しかし、守護大天使は何もそれ自身で背負うことはしません。**

　不可視のヘルパーは完全に法則に同調しますが、それでも、望んだ結果が得られない可能性があることを知っていてもトライしようとします。なぜ不可視のヘルパーはそのように働くのでしょうか？

**なぜならば、最終的に神のお慈悲によって物事が変化する可能性があるからです。ですから、例え不可視のヘルパーが法則に同調していても、神のお慈悲によって物事が変わる可能性があるのです。**

Page6

Q：それでは2番目のサイクルから3番目のサイクルに移行するとき、私たちは14芒星のポイントの中で移行するのですか？

K：そうです。それらのポイント（＊複数）は実際、大きなサイクルの中に含まれています。つまり、それら（＊14芒星のポイント）は現在のパーソナリティーに触れていて、いわば現在のパーソナリティーの内側に侵入しているのです。

Q：しかし、あなたはそのときには部屋のなかにはいないのですか？

K：あなたは部屋のなかにはいません。既に部屋を後にしています。しかし、何であれ部屋からのものはあなたの中にあります。そのサイクルはどんどん大きくなります。以前のサイクルはあなたの中にあります。なぜなら、何であれそれが提供したものは失われないからです。ですから小さなサイクルがあり、それは次のサイクルのなかにあり、そのように続きます。そのようにして、サイクルは大きくなります。そして最終的には、14芒星は潜在的可能性の最も大きなサイクルのなかにあるようになります。

　そして14芒星の外側の頂点、ポイントは5番目の潜在的可能性のサイクルの円周に触れています。しかし、私たちは14芒星をサークルのなかには置きません；しかし、そのようになっているのです。そしてパーソナリティーがそのステートに到達すると、自動的に現在のパーソナリティーは自己実現に、キリスト意識に到達します。これは現在のパーソナリティーは今や六芒星によって与えられた能力を使用しているということです；それらの能力を使用するということ、それはあなたが現在のパーソナリティーのこの三角形をマスターしたということであり、あなたがこれを今やこのポジションに置いて六芒星を形成したことになるのです。

　六芒星はレッスンのなかで述べたように、その中に、Lifeそれ自体の諸世界の中心にありますが、自己実現に到達した現在のパーソナリティーは（つまり最初の磔という意味ですが）まだそれらの境界を通過していないので、まだその現在のパーソナリティーはそのシンボルによって提供されているものを使っています。つまり、その現在のパーソナリティーは神、主の名前で働くということです。そして神、主の名前でと言う時、現在のパーソナリティーを活性化するそのスパークからという意味です；実際、そこで行われるのは神、主の仕事なのです。

EREVNA PYR N0.7 KE03/A11